

ごあいさつ

同和教育は、「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」を合い言葉に、取り組みを積み重ねてきました。学ぶことで、自らの差別性に気づくとともに、これまでの社会の制度・システムの多くが、構造的に差別を生み出していることを明らかにしてきました。「未来を保障する」ために、教育に携わる者自身の変革に努め、人権の確立した社会を構築する行動を生み出す、教育の内容とシステムの創造・構築に努めてきました。

近年、日本社会では、生活格差の拡大とその世代間連鎖が生じています。社会構造が生み出す不公平の増大で、妬みや「逆差別」という誤った意識が生じ、拡がりやすい状況になってきています。「差別の現実から深く学ぶ」同和教育を日本における人権教育としてその内容をさらに深めるとともに、これを教育の普遍とすべく、取り組みの一層の推進を図らなければなりません。

部落問題をはじめ、人権にかかわる諸問題の解決に向けて、これまでの取り組みの成果を活かし、連携・協働の取り組みをすすめていきましょう。

第43回九州地区人権・同和教育夏期講座実行委員長
九州地区県同教連絡協議会 会長 小西清則

全体会／記念講演 アクロス福岡 シンフォニーホール

8/22

貧困社会と子どもの人権 ～ともに生きる地域の創造は可能か～

加藤彰彦さん(沖縄大学 名誉教授)

戦後史のなかでも、最も深刻な生活困窮化社会を迎え、子ども、高齢者に厳しい時代が進行しています。生きること、学ぶこと、働くことの意味が鋭く問われるなか、学校(教師)は地域とどうかかわるべきなのでしょう。加藤さんの、横浜市寿町、児童相談所、沖縄での体験を踏まえた実践から、現代における地域社会の自立と創造について考えていきましょう。

特別講座 福岡市民会館 大ホール

8/23

講座Ⅰ シンポジウム／子どもや親たちのエンパワメントを

被差別の子どもをはじめ、きびしい環境におかれている子どもたちによりそい、エンパワーしていく取り組みについて、さまざまな立場から子どもたちの思いや姿の具体を交えて報告していただきます。子どもの貧困が社会問題や政治課題となる現状にあって、支援制度の周知や手続きにかかわる支援にとどまらず、そこに生きる子どもたちの思いや将来展望に焦点を当て議論していきます。

シンポジスト 原 和也さん(福岡/飯塚市筑穂地区解放子ども会 事業運営委員会)
岩元 優さん(福岡/福岡市立福岡女子高等学校)
相原初男さん(宮崎/学習支援「悠遊」都城教室)
北城博子さん(沖縄/九州・沖縄地区子ども支援ネットワーク交流学習会 実行委員会)
コーディネーター 田代 勇さん(福岡/北九州市同和教育研究協議会 会長)

講座Ⅱ 講演／炭坑のまち、筑豊・田川の人づくり、まちづくり

吉柳啓二さん(福岡/田川市教育長)

炭坑のまち、筑豊・田川における人づくり、まちづくりについて講演していただきます。たくさんの「心の黒ダイヤ」(子育てや地域・まちづくりに熱い思いもつ人たち、人情味豊かな人たち)とともに「教育と文化のまち田川」を実現しようとする営みの具体とともに、「公教育は「経済格差」を「教育格差」にしてはならない」という強い意志に学びたいと考えます。

講座Ⅲ 一人芝居／HIKARI ～何も変わらない? 何が変わった? 今、青年が問いかける～

福永宅司さん(福岡/子どもの学び館 代表取締役)

深く響く思いを胸に、情熱あふれる一人芝居で全国を駆け巡る福永宅司さん。現在の部落問題について、青年層の現実を主軸に描いたオリジナル作品『HIKARI』を公演していただきます。